

4 自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点

<発達段階の特徴を踏まえた指導・援助>

基礎研究で明らかになった発達段階の特徴及び「人権教育プログラム（学校教育編）東京都教育委員会」等の資料を参考に、発達段階に応じて右表のような指導・援助が必要であると考えた。

- I 就学前教育【児童前期】  
活動の中で自分を見付けさせる指導
- II 小学校教育【児童期】  
低学年：相手とのかかわりの中で、自分の存在に気付かせる指導  
中学年：小集団や学級内で自分ができることに気付かせる指導  
高学年：集団の中での自分の役割や存在感を感じさせる指導
- III 中学校教育【思春期】  
多様な考え方の受容と自分の個性の価値を理解させる指導
- IV 高等学校教育【青年期】  
自己を見つめ、社会生活における適性を確認させる指導



自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点（抜粋）

発達段階	I 就学前教育【児童前期】		II 小学校教育【児童期】	
			低学年	中学年
観点	項目	指導上の留意点		
A 自己の存在の価値を認めよう	1 活動を評価し、その自身を認めます。	○自分の思いで取り組んでいた、できるようになったり、新しいことにチャレンジしたりしていることを評価します。	○自分のことは自分でできたり、自分でやろうと決めて行動したりしていることを評価します。	○新しくできるようになったことがあったり、繰り返し努力したり、工夫したりしていることを評価します。
	2 活動を自己決定させます。	○自分から遊びや仕事を選んで取り組めるようになります。	○自分で考えたことを表現しながら、活動を選んで実行できるようにします。	○自分の得意なことを生かせる場を考え、選んで取り組めるようにします。
	3 活動のルールや目標をもたせま	○生活の仕方等のままりを守って行動できるようにします。	○生活のままりを守って行動できるようにします。	○学級で考えたままりを守って行動できるようにします。
B 自分のできることを実感させよう	1 自分が周りの人の役に立っていることを実感させます。	○保護者や教師等、周りの人になった行動に気付かせます。	○学級の友達等のためにできることや認められることを考え、実行できたことを気付かせます。	○学級の友達等のためにできることや認められることを考え、実行できたことを気付かせます。
	2 自分のできることを実感させます。	○片付けや準備等、自分でできることを実行させます。	○家族や学級内の中で自分でできることを考えて実行させます。	○学級のためにできることを考え、工夫して取り組ませます。
	3 自分のできることを実感させます。	○自分のできることをみんなの前で発表し、友達から認められるようにします。	○グループ活動等の中で、互いのよさを認め合えるようにします。	○学級等の活動の中で、互いの得意なことや好きなことを認め合えるようにします。
C いろいろな活動を通して、自分の得意なことを発揮できるようにしよう	1 自分の考えを大切にさせます	○自分でやりたい遊びを選び、自分のよさを発揮できるようにします。	○自分には、得意なことやよいところがあることに気付かせるとともに、自分の考えを大事にできるようにします。	○得意なことを発揮させるとともに、頑張ったことや考え方を、自分の方法を大事にできるようにします。
	2 自分のできることを実感させます。	○同じ遊びでもやりたい子とやりたい子がいることに気付かせます。	○同じ活動に対して、様々な考え方があふれるように気付かせます。	○やりたいことや好きなことは一人一人違うことに気付かせます。
	3 自分のできることを実感させます。	○友達等がいることで、活動が楽しくなり、新しいことを見つけたことに気付かせます。	○友達等と一緒に活動し、遊び方を工夫したり、ルールを決めたりして、人との多様なかかわりができるようにします。	○友達等と一緒に活動し、遊び方を工夫したり、ルールを決めたりして、人との多様なかかわりができるようにします。
D いろいろな活動を通して、自分の得意なことを発揮できるようにしよう	1 できたことやその過程を認め、達成感や充実感を味わわせま	○一人でできたことや友達に手伝ってもらったことに気付かせます。	○一人でできたことや友達に手伝ってもらったことに気付かせます。	○一人でできたことや友達に手伝ってもらったことに気付かせます。
	2 否定的な面に対する気持ちを切り替えさせます	○失敗しても頑張っていることを評価します。	○失敗してもよくよせすに取り組んでいることを評価します。	○失敗を恐れずに取り組んでいることを評価します。
	3 困っていること等は他者もあることに気付かせます	○やりたいこと等を我慢することは、他の子も同じであることに気付かせます。	○友達も同様に、頑張っていることに気付かせます。	○係等の集団活動で、得意な子も苦手な子も一生懸命努力していることに気付かせます。

発達段階【〇〇期】

自尊感情を高めるための5観点

各観点を踏まえた留意項目

指導上の留意点  
※指導・援助において、幼児・児童・生徒が実感したり、できたりするよう、内容や方法、形態等を工夫することが大切です。

自尊感情を高めるための5観点及び発達段階の特徴、指導方針を基に「幼児・児童・生徒の自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点」を作成した。自尊感情を高めるための5観点は、指導・援助の重点として2～3項目程度にしほっても十分効果がある。-23-

III 幼児・児童・生徒の自尊感情を高めるための指導モデルの作成

指導モデルは、「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点」及び検証授業を基に、学習（保育）において配慮する指導・援助の例を示したものである。

各幼稚園・学校では、各教科・領域等の指導において、学習（保育）内容やねらいに応じて、幼児・児童・生徒のよさが現れるような学習活動や指導・援助等を工夫していくことが重要である。その際、教員の姿勢として、子供の現実の在り方を認め、受け入れ、信頼すること、子供たちに目標や課題、役割、手順等を選択させ、達成感を味わわせること、子供たちの課題達成の可能性について期待をもって指導することが大切である。

自尊感情を高めるための指導・援助の視点として、「多様な学習課題や目標」「肯定的な評価」「活動の見通し」「活動を選択・決定」「自己判断、行動」「グループ活動（小集団協同学習、異年齢集団活動）」「役割の遂行」等を踏まえて、学習（保育）を展開することが望ましい。

自尊感情を高めるための指導モデル（例：中学校第1学年 美術科） ※3観点活用

展開	学習活動・学習内容	○指導上の留意点	自尊感情を高めるための留意点
導入	1 切り出し刀の使い方、浮き彫りの技法の重点を確認する。	○ 技法や道具の使い方を、各グループで確認させる。	
	2 各グループで実際に彫刻刀の使い方を確認し、アドバイスし合う。	○ 道具の使い方や考え方を肯定的にとらえて、互いにアドバイスさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>* グループ学習では互いの活動を肯定的にとらえて取り組ませる。</li> <li>* グループ学習での発言に責任をもたせ、相手にアドバイスできるようにさせる。</li> <li>* グループ学習では、互いの作品や道具の使い方について肯定的に認めさせる。</li> </ul>
展開	3 個人制作 文字と物の重なり以外の周囲を彫る。	○ グループ学習で確認した道具の使い方や技法上の重点を意識させながら、取り組ませる。  ○ 各グループの中で正しく道具を使い、彫り方を理解しながら取り組んでいる生徒を紹介し、周りの生徒にそのよさを確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>* グループ学習で確認した内容を目標にして自己の制作に取り組ませ、できるようになった点を確認させる。</li> <li>* 各グループにリーダーをおき、グループ全員で技能や表現力の高まりを確認させる。</li> </ul>
	4 本時の学習を振り返り、ワークシートに自己の課題、次時の目標等を記入する。	○ 自己の取組について肯定的にとらえさせ、自己評価を行わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ワークシートに毎時間の自己の制作における目標や課題を記入させ、自己の制作について今後の方向性を明確にさせて、展望をもたせる。</li> </ul>

A-3: 活動のルールや目標をもたせま

B-2: 自分の力でできることに気付かせま

B-3: 周りの人からの肯定的な評価を受ける場を設定し

A-2: 活動を自己決定させま

B-1: 自分が周りの人の役に立っていることを実感させ

A-2: 活動を自己決定させま

E-1: できたことやその過程を認め、達成感や充実感を味わ